

# 平成28年度 学校自己評価システムシート ( 県立越谷東高等学校 )

目指す学校像	志を高くチャレンジ精神に満ちた生徒を育て、きめ細かく面倒見のよい指導を実践し、地域から信頼される学校
--------	--

重点目標	1 生徒の学習力を高める 2 規律ある生活態度を身につけさせる 3 目先に左右されない進路決定を実現する 4 部活動を活性化する 5 地域との連携を深める
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・学校全体が落ち着いて、前向きに授業に取り組んでいる。 今後は、授業内容の工夫や生徒の家庭学習の定着により、生徒の学力をさらに向上させることが課題である。	①生徒の学力向上を目指した授業改善を行う。  ②生徒の家庭学習習慣を確立する。	①授業改善に向けた授業研修会を実施する。 ①授業評価アンケートを適切にフィードバックし、授業改善につなげる。 ①公開授業、授業研修、授業時間の確保、教材の工夫、学習環境の整備等を行う。  ②各教科と学年で連携し、家庭学習の習慣をつける。 ②生徒の卒業後のイメージを持たせ、学習意欲の向上を図る。	①生徒アンケート、授業アンケートにて、授業満足度が昨年度の数值より増加したか。  ②授業アンケートにて、予習・復習をしている生徒が昨年の数值より増加したか。	①授業研修会は高校教育指導課の指導主事から7ヶ月間についての講演会を行い、授業改善の良い契機となった。 ①授業アンケートによる授業満足度はプラスの評価が85%で昨年より1ポイント上昇した。 ①6月に授業研修週間を実施し、各教科で授業研修を行った。また、授業カウントを行い曜日の調整を行った。 ②授業アンケートから、「予習や復習・宿題を授業ごとにほとんどしている」との回答は前年度より1.5%増加した。 ②進路行事は計画通りに実施することができた。生徒アンケートによると、「進路指導を十分に行っている」という回答は昨年度より10%増加した。	A	生徒の授業評価アンケートによると、授業に対する姿勢は近年上昇し続けている。しかし、積極的に予習復習をする生徒の割合は多くない。また、家庭学習時間については生徒自身や保護者アンケートからも十分でないという結果がうかがわれる。入学後の学習意欲の低下や、家庭学習習慣の定着が課題である。
2	・大多数の生徒は高校生としての自覚を持ち、学校生活を送っている。 今後は、指導体制の維持をし、さらに社会人としてのマナーを身につけさせることが課題である。	①基本的な生活習慣の確立を目的とした指導を継続する。  ②社会性を身につけさせるために、挨拶や言葉遣い等の指導を行う	①学校全体の統一した指導や家庭との連携を深め、基本的な生活習慣の指導を継続する。 ①保健室を利用する生徒への健康管理指導を適切に行う。  ②時間を守らせること、挨拶や言葉遣い、服装の指導をとおし社会性の向上を目指す。	①職員の共通理解が図られたか。 ①遅刻率、事故発生件数は昨年度より減少し、皆勤者が増えたか。 ①生徒の健康状態を把握し、適切な指導を行い頻回来室者が減少したか。  ②挨拶、言葉遣い、服装の指導を実施できたか。	①第1回職員会議にて生徒指導方針を策定し学校全体の統一した指導を確認し共通理解と共通実践をすることができた。指導案件の発生件数は4件で昨年度より5件減少した。 ①定期健康診断の実施や各HR担任との連携して生徒の心身の健康状態を把握し指導に生かすことができた。 ②身だしなみ指導週間に限らず、日常的に整容指導を行った。また、言葉遣い等についても通年をとおしてぶれることなく指導できた。	A	本校は落ち着いた学習環境が整ってきた。今後も学校を取り巻く社会環境の変化に対応し、継続することが課題である。また、教育相談による個々の生徒に対する支援も充実してきた。今後も継続することが課題となる。 健康教育についても、今年度同様に、担任と保健環境部の連携をとり健康管理を進めることが課題である。
3	・生徒の進路先は大学、短大、専門学校、公務員、一般企業とそれぞれ希望者があり、多岐にわたっている。 生徒一人一人の多様な進路希望に対応できるようきめ細かな進路指導の充実と指導体制の確立が課題である。	・継続的組織的な進路指導を遂行し、進路意識を高めた自己理解に基づく生徒一人一人の適切な進路実現する。	・総学・LHRの時間を有効活用して、3年間を見通した計画的・組織的な進路指導を展開する。 ・進路のしおり、進路便りを充実させる。 ・各学年と連携し、進路先や希望校を早期に自己決定できるようにする。 ・進学補習、小論文指導を計画的に推進する。 ・進路指導部と学年が連携し、企業訪問を実施する。	・大学短大の現役進学者は昨年度より増加したか。 ・民間企業への就職希望者の正規採用数は増加したか。 ・企業訪問を実施したか。 ・補習講座の充実と参加生徒は増加したか。	・大学短大の現役進学者は二学期終了時点で昨年度より15人増加した。また、民間企業の正規採用数は35人で希望者の100%が決定した。企業訪問は学年団の協力を得て13社となり、昨年度よりも飛躍的に増加した。補習講座は全学年で16講座開講できた。また、参加者も昨年度より増加した。	A	生徒の変化を考慮し、より生徒の力を伸長するように進路指導計画を見直す必要がある。また、進路指導部と学年団の連携を更に強めることが課題である。
4	・各部活動の活動内容が徐々に向上してきている。部活動の加入率を高め、より一層の活性化を必要とする。	・部活動の参加率を上げ、活動内容や成績の向上を目指す。	・文化祭や体育祭などで、活躍できる場を増やし、部員のやる気を引き出す。 ・中学校や他校との積極的な交流により、生徒の満足度を上げる。	・部活動の加入率が増加したか。 ・生徒アンケートにて部活動に積極的に参加している生徒の割合が昨年度より増加したか。	・部活動加入者は文化部358人 運動部371人で、合計数は昨年度と同数であった。生徒アンケートによると「部活動に積極的に参加した」との割合は約3.7%増加した	B	文化部合同フェスタ等の取組は、部活動全体の活性化につながっている。日々の活動の取組を踏まえ、このような取り組みと継続させることが課題である。
5	・本校の教育活動に対する理解を図るため、地域や保護者との連携を継続する必要がある。	・保護者や地域に学校情報を発信し、本校の教育活動の理解を得る。	・ホームページの更新をタイムリーに行い、常に新しい情報を発信することにより、本校への関心を喚起する。 ・PTA・後援会活動をさらに活発化し、保護者との絆を深める。 ・中学校訪問や上級学校訪問の受け入れを、広い地域を対象に実施し、本校のPRを行う。	・ホームページの更新回数やアクセス数は昨年度より増加したか。 ・PTA行事の参加人数は昨年度より増加したか。 ・中学校訪問や上級学校訪問の受け入れた学校数は昨年度より増加したか。	・ホームページのアクセス数は15万件で、毎年増加傾向にある。校長日記や各部活動の記事の充実が要因と考えられる。PTA行事参加人数は昨年と同程度であった。年に3回の理事会の出席者は約70名の参加であり、理事の積極性が見られた。学校説明会では、延べ759組の参加が有り昨年度より90組の増加であった。また、上級学校訪問の受入数は昨年度より約20%の増加であった。	A	ホームページの部活動の記録の更新回数を更に多くする。公開授業ではより多くの保護者に来校してもらえようように工夫をすることが必要である。学校説明会の効果は着実に現れているので、今後も精選し実施することが課題である。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年 2月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
基礎学力の向上のカギは、家庭学習習慣をどのように定着させるかである。家庭学習習慣を、より多くの生徒に身につけさせることが課題である。成績の格差は家庭学習と密接な関係があるので引き続き取り組んでほしい。	
近年、学校の学習環境が毎年良くなっている。生徒も良く挨拶をして、服装や言葉遣いも良くなっている。善行表彰は、とても良いことと思う。表彰により、励みになる生徒が多いと思う。	
行ける大学から行きたい大学へ、一般受検をする生徒が増えると良いと思う。進路指導計画の下、各学年の目標をしっかりやるのが一番大切だと考える。	
ロータリークラブの国際交流プログラムもお役に立ててもらいたい。部活動と、勉強を両立させることは社会に出てからも大切である。部活動加入率も落ちないようにしてほしい。	
HPの更新をこまめに行っている。そのため学校内のことを詳しく知ることができている。	
PTA行事等の参加率も増え、活気が出てきた。	